

Ⅲ 結果の概要

今回の調査結果の概要は次のようになる。なお、「増加」「減少」の記載については、前回の調査との比較、「増加傾向」「減少傾向」の記載については、5回の調査を通した経年変化を表している。また、有意差があるものについては、「^(*)」を付けている。

1 児童・生徒編＜生活様式と子どもたちの適応感＞

(1) 家庭での生活

①起床・就寝（P. 13）

- ・小学生、中学生を比較すると、12時過ぎに寝る割合が、中学生になると大幅に増加している。
- ・小学生は、起床時刻が早くなっている傾向にある。^(*)

②朝食・夕食（P. 14～）

- ・小学生、中学生ともに「時間がない」という理由で朝食を食べない割合が高い。
- ・夕食は、小学生、中学生ともに、「家族と食べる」が最も多く、「一人で食べる」が前回と比べて減少している。^(*)

③手伝い（P. 17）

- ・手伝いをする子は、小学生は8割半ばで、中学生は8割である。
- ・小学生、中学生ともに、「食事の用意、後片付け」の割合が高い。^(*)

④家庭学習（P. 19）

- ・小学生、中学生ともに、「学校の宿題」の割合が高い。^(*)
- ・中学生は、「学校の宿題」が15年度から増加傾向にある。^(*)

⑤家で注意されること（P. 20）

- ・小学生、中学生ともに、「身のまわりの片付け」「勉強のこと」の割合が高い。
- ・中学生は、「帰宅時間」が減少傾向にある。^(*)

⑥家の人との会話（P. 21）

- ・学校のできごとを家の人に「話す」子どもは、小学生が9割半ば、中学生が9割である。^(*)
- ・小学生、中学生ともに、「よく話す」が平成15年度以降、増加している。

⑦家の人との相互理解（P. 22）

- ・小学生、中学生ともに、「自分を理解してくれる」「自分の話を真剣に聞く」「家族を尊敬する」が、前回より増加している。

⑧生活時間（P. 23～）

- ・平日の勉強時間について、小学生は1時間～2時間、中学生は2～3時間が最も高い。^(*)
- ・学校から帰った後の、平日の読書時間は、小学生、中学生ともに、「全くしない」が最も多くなっている。

(2) 学校での生活

①教科の好き嫌い (P. 25～)

- ・好きな教科の上位は、小学生では図画工作、体育、理科である。中学生では保健体育、学級活動、社会である。
- ・平成10年度より、「好き」が増加傾向にある教科は、小学生は、国語、学級活動、中学生は保健体育、社会、学級活動である。

②行事の楽しさ (P. 27～)

- ・中学生の「遠足」は楽しいが増加傾向にある。
- ・小学生、中学生ともに9割程度の子どもが「宿泊学習」は楽しいと回答している。
- ・4割程度の小学生が「学芸会」、5割以上の中学生が「合唱コンクール」は楽しいと回答している。^(*)

③部活動への参加状況と要望 (中学生のみ) (P. 28～)

- ・部活動加入率は8割以上で、途中で退部した生徒は全体の5.7%であった。
- ・平成10年度より、部活動に入っている生徒は、減少している。
- ・退部理由としては、「顧問と合わなかったから」が増加している。
- ・積極的に参加している生徒は、8割程度である。
- ・部活動に対して「特に不満は感じていない」と回答する生徒が最も多かった。
- ・平成30年度から部活動に入っていて、よかったと感じることは「友だちが増えた」が増加している。

④教師への要望 (P. 32～)

- ・教師への要望については、小学生は「勉強をおもしろく教える」、中学生は「勉強をわかりやすく教える」と回答した割合が最も多い。^(*)
- ・やめてほしいことについては、小学生は「宿題を多く出す」、中学生は「わかりにくい授業をする」という回答が多かった。

(3) 地域での生活

①地域との関わり (P. 34)

- ・小学生、中学生ともに、8割程度が、「近所の人とあいさつする」と回答している。
- ・近所の人から注意されることは「ない」と回答した割合は、今回の調査が最も高い。中学校については、「ない」と回答した割合は増加傾向にある。^(*)

②地域での活動 (P. 35)

- ・小学生、中学生ともに、「近所の祭りや盆踊りなどへの参加」が最も多かった。^(*)
- ・中学生よりも、小学生の方が地域での活動の参加率は高い。

③地域での施設利用 (P. 36)

- ・小学生、中学生ともに、「公園」を多く利用している。

④地域への愛着 (P. 37)

- ・小学生、中学生ともに、「日本が好き」と回答した割合が最も高く、増加傾向にある。

(4) 友だちとの関わりなど

①帰宅後の活動内容 (P. 38～)

- ・小学生は「ゲーム機等でゲームをする」が最も高い割合であった。
- ・中学生は「スマートフォンや携帯電話を使う」が最も高い割合であった。

②学習塾 (P. 40～)

- ・通塾では、小学生は2割半ばとなり低下、中学生は5割弱と前回の調査と比べると低い割合となった。
- ・塾に行く日数としては、小学生、中学生ともに、「週に2、3回」が最も多い。
- ・通塾の理由としては、小学生、中学生ともに「成績をあげたい」という回答がもっとも多い。

(5) 価値観と将来展望

①環境問題に対する意識 (P. 42～)

- ・中学生のほうが環境問題に対して広く関心を持っている。
- ・小学生、中学生ともに「ゴミは分別して捨てる」が最も高い割合だった。

②染髪・ピアス等への価値観 (P. 44～)

- ・「髪を染める」については、小学生は「大人」の割合が、中学生は「高校生」が最も高い。
- ・「ピアスをする」については、小学生は「大人」の割合が、中学生は「高校生」が最も高い。^(*)
- ・「化粧をする」については、小学生、中学生ともに「大人」の回答が減少傾向にある。^(*)
- ・「スマートフォン・携帯電話を持つ」については、小学生、中学生ともに「小学校高学年」が最も高い。^(*)

③将来について (P. 48～)

- ・小学生、中学生ともに、「家庭や家族を大切にする人」になりたいと回答している割合が最も高かった。
- ・職業選択においては、小学生、中学生ともに、「自分のやりたいことと一致している」「収入が多い」と回答している割合が最も高かった。

(6) ストレスと学校への適応

①いじめ (P. 50)

- ・小学生、中学生ともに、「暴力をふるう」と回答した割合が最も高い。

②ストレス (P. 51)

- ・小学生、中学生ともに、「朝、なかなか起きられない」「疲れやすい」「夜、なかなか眠れない」という回答が上位を占めている。
- ・小学生においては、全ての項目で「よくある」「ときどきある」と回答した割合が増加した。

- ・中学生は、「朝、なかなか起きられない」と回答した割合が減少傾向にある。一方で、「疲れやすい」「夜、なかなか眠れない」「おなかが痛くなる」「イライラする」「午前中、頭がぼんやりする」「何もする気になれない」「肩がこる」「人や物にあたりたくなる」「死にたいと思うことがある」の項目で「よくある」「ときどきある」と回答した割合が増加した。

③学校への適応（P. 52～）

- ・小学生、中学生ともに、5割程度が、学校へ行きたくないと思うことが「よくある・ときどきある」と回答している。
- ・学校へ行きたくない理由について、小学生、中学生ともに、「行くのがめんどうなとき」と回答した割合が最も高い。また、「行くのがめんどうなとき」「いやな授業があるとき」「体の調子が悪いとき」の項目が上位を占めている。
- ・学校へ行きたくないとき、家の人にしてほしいかについて、小学生、中学生ともに、「何もしないでそっとしておいてほしい」が最も多かった。

④給食を残す理由（P. 54）

- ・小学生、中学生ともに、「ほとんど残さない」と回答した割合が最も高い。
- ・残す理由については「きれいな物があるから」と回答した割合が最も高い。

（7）スマートフォン・携帯電話（P. 55～）

- ・所持については、小学生、中学生ともに、増加傾向にある。中学生では、9割の生徒が所持している。^(*)
- ・所持していない小学生、中学生のうち、「必要である」と回答した児童・生徒は、増加している。
- ・よく使う機能は、小学生、中学生ともに、「メール・LINE」が最も多かった。^(*)
- ・家庭でのルールを、「決めている」と回答した割合は、小学生は6割弱で、中学生は5割半ばであった。
- ・操作時間については、小学生、中学生ともに、4時間以上の割合が高い。^(*)
- ・メール等で悪口を書かれたりいやがらせをされたりしたことがあるかの問いには、小学生、中学生ともに、9割近くが「ない」と回答した。

（8）新型コロナウイルス感染症の影響（P. 60～）

- ・小学生、中学生ともに、全ての項目において影響があったという回答が多い。^(*)
- ・小学生は「給食の中止・制限」の割合が最も高く、中学生は「学校行事の中止」の割合が最も高い。^(*)
- ・「家族との時間」について小学生では6割半ば、中学生では6割弱が良い影響があったと回答している。^(*)

2 保護者編く子どもに関する教育の考え方と学校教育への期待＞

(1) 家庭における教育

①子どもに対する理解 (P. 62)

- ・「よく遊ぶ友だちの名前」は、小学生の保護者、中学生の保護者ともに割合が高い。^(*)
- ・子どもの内面に係る「今悩んでいること」については小学生の保護者、中学生の保護者ともに3割である。

②子どもとの会話の内容 (P. 63～)

- ・「お子さんとよく話しますか」の設問に「はい」と回答している割合は、小学生保護者の方が中学生の保護者よりも高い。^(*)
- ・「進路、将来のこと」については、中学生の保護者の方が高い割合である。^(*)

③しつけの様子 (P. 65)

- ・小学生の保護者、中学生の保護者ともに、「朝食をとらせる」が9割を超えている。^(*)
- ・小学生の保護者、中学生の保護者ともに「近所の人への挨拶」は減少傾向にある。^(*)

④休日の過ごし方 (P. 66)

- ・小学生の保護者では「親子で過ごす」という回答が最も高く、中学生の保護者では「家でんびり過ごす」という回答が最も高い。
- ・中学生の保護者では「家で勉強する」という回答が増加傾向にある。

⑤進路に対する考え方 (P. 67)

- ・進学させる学校について、小学生、中学生の保護者ともに、「公立学校に進学」が8割を超えている。
- ・中学生の保護者では、「公立学校」への進学希望が、前回の調査より減少した。

⑥進学に対する考え方 (P. 68)

- ・高等学校への進学について、小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの学力にあった学校」が最も高く、約7割であった。
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「自由にのびのびできる学校」への進学希望が、前回の調査より増加した。

⑦学習塾に対する考え方 (P. 69～)

- ・「学習塾に通わせている」は小学生の保護者で2割半ば、中学生の保護者で4割半ばである。^(*)
- ・中学生の保護者が、学習塾に通わせる理由としては、「成績を上げる」が年々増加し、「子どもが希望するから」が年々減少している。^(*)

⑧家庭教育で重視すること (P. 71)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの健康に気を配ること」、「親子で対話すること」が9割を超える。
- ・小学生の保護者、中学生の保護者ともに、「子どもの個性を尊重」が年々増加している。^(*)

(2) 学校教育への満足と要望・期待

①学校教育に対する満足度 (P. 72～)

- ・すべての項目で「とても満足」と「満足」を合わせた割合が、増加した。(*)
- ・すべての項目で「とても満足」の回答が少なかった。

②学校への期待 (P. 74)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「心の豊かさを育てる教育」を学校に期待している割合が最も高い。
- ・小学生、中学生の保護者ともに「実社会への適応力を身につける教育」を望む割合が増加傾向にある。(*)

③教育の分担 (P. 75～)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、おもに家庭で身につけるのがよいと回答されたのは、「基本的生活習慣」で、9割を超えているが調査年度毎に減り続けており、小学校の保護者で「おもに学校で」の回答が増加している。(*)
- ・「人とのつきあい方」・「自分の身の安全の守り方」・「他人を思いやる心」の項目は「おもに学校で」の回答が近年増加している。(*)

④進路指導に対する要望 (P. 76)

- ・進路指導の要望としては、小学生、中学生の保護者ともに、7割程度が「子どもの学力に応じた指導」を望んでいる。
- ・中学生の保護者では、「子どもの話をゆっくり聞くこと」よりも、「合格の難易度などの詳しい情報の提供」が重視されてきている。(*)

⑤部活動に対する期待 (P. 77)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「集団生活の経験ができる」ことを、最も期待している。

(3) 地域における活動と愛着

①地域との関わり (P. 80～)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「祭りへの参加」「清掃や環境保護などの活動」「近所の子どもの遊び相手」が上位を占めている。全体を通して地域との関わりをもつ割合が減少している。(*)
- ・近所づきあいについては、「会えばあいさつする」「つきあいはない」という回答が増加傾向にある。(*)
- ・小学生、中学生の保護者ともに、よそのお子さんを注意したりしかったりすることが、「ある」「時々ある」が減少しており、「あまりない」が増加した。(*)

②地域への愛着 (P. 82)

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「今住んでいる地域が好き」「綾瀬市が好き」と回答した割合が増加した。また、「綾瀬市が好き」という回答は増加傾向にある。(*)
- ・「綾瀬について自慢できることがある」の割合は、小学生、中学生の保護者ともに、減少した。(*)

③子どもの地域活動への参加状況（P. 83～）

- ・「子どもを地域の活動へ参加させている」と回答した割合は、小学生、中学生の保護者ともに、減少傾向にある。^(*)
- ・参加させていない理由については、「子どもがやりたいと言わないから」と回答した割合が増加した。
- ・参加させている活動は、「スポーツ活動」と回答した割合が最も高い。

（４）教育に対する価値観と悩み

①教育問題に対する考え方（P. 86～）

- ・小学生の保護者では「学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい」と考えている割合が最も高かった。^(*)
- ・中学生の保護者では「小学校や中学校でも学力別の指導を行った方がよい」「学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい」と考えている割合が高かった。^(*)
- ・「学校に行きたがらない子どもに無理に行かせる必要はない」という割合が増加傾向にある。^(*)
- ・「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけた方がよい」は、これまでの調査と比べて減少傾向にある。^(*)

②公教育に関する話題（P. 88）

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「学校における性教育」の必要性を感じている割合が増加傾向にある。^(*)
- ・「小学校からのキャリア教育」は、小学生、中学生の保護者ともに増加傾向にある。^(*)

③子どもの教育に関する考え方と悩み（P. 89～）

- ・小学生、中学生の保護者ともに、「子ども中心の毎日を送っている」が増加傾向にある。^(*)
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「髪を染める」「ピアスをする」「化粧をする」について、「そうすべきではない」「大人」という回答が減少傾向にある。^(*)
- ・スマートフォン・携帯電話については、小学生、中学生の保護者ともに、「持ってもいい」時期は「中学生から」の割合が増加傾向にある。^(*)

④子育ての悩みや実感（P. 92～）

- ・小学生の保護者「子どもについて悩みがある」割合は、前回の調査と同じ。中学生の保護者は減少傾向にある。^(*)
- ・悩みの内容については、小学生、中学生の保護者ともに、「学習について」が、最も多い。
- ・しつけで困ることについては、小学生、中学生の保護者ともに、「困っていない」と回答している割合が最も高い。^(*)
- ・遊びに必要なことについては小学生、中学生の保護者ともに「友だちと一緒に遊ぶこと」の割合が最も高い。

- ・子どもに関連して感じることでは、小学生、中学生の保護者ともに「子育ては楽しい」である。
- ・将来どんな人になってほしいかについては、小学生、中学生の保護者ともに、最も多いのが「思いやりや優しさのある人」、次いで「自分の考えをしっかりとって行動する人」「人に迷惑をかけない人」の順になっている。

(5) スマートフォン・携帯電話 (P. 99～)

- ・中学生は、スマートフォンや携帯電話を所持しない生徒の割合が低い。^(*)
- ・持たせない理由としては、中学生の保護者では、「犯罪に巻き込まれる」が、増加傾向にある。
- ・必要とする機能については、小学生の保護者では「通話」、中学生の保護者では「メール・LINE」の割合が最も高い。
- ・家庭でルールを決めているかについては、小学生、中学校の保護者ともに7割であった。
- ・小学生、中学生の保護者ともに、「フィルタリング・サービスを利用している」割合は7割程度で、中学生の保護者では、前回の調査時より減少している。^(*)

(6) 新型コロナウイルス感染症の影響 (P103～)

- ・小学生の保護者、中学生の保護者ともに「学校行事の中止」が最も高い割合であった。
- ・子どもにどのような影響があったかについて、小学生の保護者、中学生の保護者ともに、「家族との時間」が最も高い割合であった。